

## 市民が多様に集うSC

「ヨシヅヤ」は愛知県津島市にある地元の大型SC(ショッピングセンター)である。

ここは過去、毛織物の産地として有名で、まちは女工さんであふれていたという。が、現在は、名古屋市のベッドタウンになっている。ヨシヅヤは1932年創立で、SCとして地元民に親しまれ、現在では愛知県下に支店を増やし、全21店舗となっている。2代目である社長は「MOTTAINAI(もったいない)」をキーワードに、商品開発や施設整備、ゴミのリサイクルなどにも積極的に取り組んでいる。今回、改修設計をしたのは郊外にある本店のトイレ。当地を訪れるたびに不思議だったのは、このまちには人気が少ないのに、この店には老若男女を問わず、人が多いことだった。今や人はSCに集まるのだろうか。ここは少なくともこのまちの、買い物を通した新しいコミュニケーションの場なのかもしれない。

## 家族を大切にしたヨシヅヤのトイレ

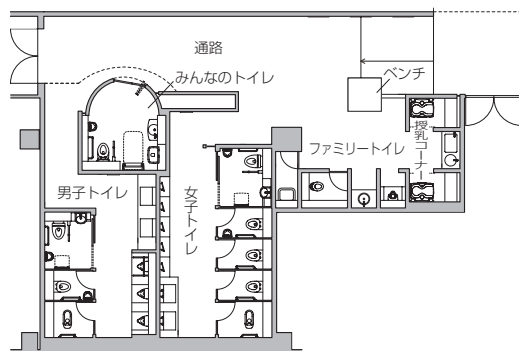
そこで、トイレのテーマをフロア別に設定し、3階は子連れで買い物に来る家族連れを対象にファミリートイレとした。ファミリートイレでは、通路との間の壁を取り壊して一体の広場とし、中央に四角いベンチを置いた。私どもは商業施設でのさまざまな実践から、家族連れの買い物客は、男女ともに入れる授乳、オムツ替えなどを中心にしたファミリーコーナーを求めていると実感している。その背景には、最近の子育ては両親共同で行うことが当たり前になってきたことにある。竣工後、子どもたちは楽しんでトイレに入り、「外出時はいつもここに来ないと機嫌が悪い」、「ここでオムツが取れた」などと好評で、子どもの行列が出来るほどである。また、中央のベンチはさまざまに活用されている。

1階は誰もがアクセスしやすい階であることから、ユニバーサルデザインを徹底した。ブースはすべて1.2×1.9mで通常より約5割大きくし、全ブース手すり付きで、車いすでも、大きな荷物を持った買い物客も、介助者と訪れた高齢者も、誰もが利用しやすいトイレとした。高齢化が進んだわが国では、買い物は、高齢者の楽しみのひとつになっており、安心して使える快適なトイレがあることは、その施設がゆったり過ごせる場と同義であるといつて過言ではない。それは家族連れでも同様で、この場が市民の豊かに集う場になってほしいと願っている。



1階トイレ | 1—男子トイレ | 2—女子トイレ

3階ファミリートイレ | 3—全景:手前はベンチ | 4—サイン | 5—正面は幼児用トイレ、左は授乳コーナー



3階トイレ平面図 1/250

こばやし・じゅんこ——設計事務所ゴンドラ代表/日本女子大学家政学部住居学科卒業。  
現在、文化女子大学非常勤講師、日本トイレ協会理事。  
主な作品:滑川市立西部小学校[2005]・東京メトロ銀座線三越前駅[2006]・大丸東京店[2007]のトイレ設計、千代田区秋葉原有料公衆トイレ[2006]など。